

消化器一般外科 後期研修プログラム

大学病院レベルの高度な医療を取り入れつつ、地域に密着した common disease も対症としている。術前検査から手術・術後・緩和治療まで一貫して担当し全人的医療を目指す。

対症疾患は上下部消化管、肝胆膵、副腎、後腹膜の良性悪性腫瘍のみならず、急性胆嚢炎や虫垂炎、ヘルニア、痔疾患など良性疾患など大学病院では経験が少ない common disease など、広範な専門知識と技術の習得を目指す。

手術は鏡視下手術も取り入れ、検査・化学療法・緩和治療にも精通することを目標とする。

検査は上部内視鏡検査、腹部・甲状腺・乳腺エコー検査や各種造影検査、エコーガイド下処置・治療（針生検、PTCD など）などの技術もする。

外科系専門医（消化器外科専門医、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医など）取得にはまず日本外科学会専門医が必要となるが、そのための必要経験症例 350 例（内術者 120 例）は 2 年以内に経験可能であり外科学会専門医取得も研修目標とする。

以下、研修医の週間予定の一例を示す。

	月	火	水	木	金
午前	病棟	外来	病棟	内視鏡 エコー	病棟
午後	手術	手術	手術	手術	外来手術

S1～S3 で取得できる資格など

外科学会専門医など

学会発表

年に 1 ～ 2 回

指導医

春田 英律

その他 （待遇）

週 1 回半日の研究日を設け大学病院などへも定期的に研修可能。

当直は病院規定どおりで月 2 ～ 3 回程度（当直明けは午前中に帰宅）。

夏季休暇は 7 日間× 2 あり。冬季休暇あり